



DiGiCo SD シリーズ V726 リリースノート

新機能について（※別途 V726 Appendix を併用してご参照ください）

- ・ SDRE 及びリモートフェーダーポッドに対応しました。
- ・ キーボード上の数字キーがショートカットキーとなり、数字 1 ～ 6 でバンクセレクトを、数字 0 でレイヤー切り替えが行えます。
- ・ 「Copy Audio」パネルの左下に「Scroll / Edit」切り替えボタンが追加され、誤操作を防止します。また「Copy Audio」パネル上での Waves ポートの指定が可能になりました。
- ・ Console オプションに「Disable Loopback」が追加され、Soundgrid 対応機器が存在しない場合などの何かしらの Waves 機器関連のエラー時に、Waves ポートにルーティングされた音声オーディオ・エンジンによってループバックされないようにします。
- ・ マスター画面の「Options」メニューの「Gangs」タブで、ギャングに含めるチャンネル・コントロールを設定できます。設定はチャンネルの種類ごとに、それぞれ独立した設定を行えます。
- ・ マスター画面「Layout」メニューの「Aux Sends to Faders」パネルで Aux センドを選択すると、その Aux バスのセンズ・オン・フェーダー機能が ON になります。

「faders only」ボタン : 選択した Aux バス・センドにチャンネル・フェーダーをアサインします。
「activate solo」ボタン : 選択した Aux バス・センドにチャンネル・フェーダーをアサインし、Aux マスターをソロにします。
「clear」ボタン : 現在の選択を解除します。
「bring to surface」ボタン : Aux 出力を含む最初のバンクを選択します。

- ・ Fader Bank 画面に「include/exclude」ボタンが追加され、各レイヤーの上にある「include/exclude」ボタンにより、コンソール・ワークサーフェイスのレイヤー・ボタンを押した時にそのレイヤーを表示するかどうかを設定します。選択はセッション固有ではなくコンソール固有です。セッションには保存されず、各コンソール自体の設定に保存されます。(SD5、SD7、EX007、SD8、SD10 にのみ追加)

- ・ 「Audio I/O」画面の「Cards & Sockets」メニューに入力ソケットの「Line Check」モードが追加されました。このモードを有効にした状態で入力ソケットにタッチすると、チャンネルにルーティングされているかどうかに関係なく、そのソケットのゲイン / +48V / パッド・コントロールおよび「Listen」機能が使用できるようになります。ゲインの調整は touch turn エンコーダーで行います。

「Listen」を ON にした場合、「Options」メニューの「Solo」タブでの設定に従って、選択したソケットからの音声は Solo 1 または Solo 2 に送られます。

このソケットを使用する入力のドロップダウン・リストもあります。

※この機能は、オーディオ・エンジンを備えていないリモート機器（つまり、オフライン・ソフトウェアまたは EX007）では無効です。

-
- ・ Solo オプションに新たに追加された「Line Check Listen」では、「Line Check」で検聴する音声信号を送るソロ・バスを Solo1 か Solo2 から選択できます。
 - ・ Solo オプションの「Solo Displays Insert and Output」では、チャンネルの「Solo」ボタンを押した時に、そのチャンネルに挿入された、またはそのチャンネルからルーティングされた内部 FX、グラフィック EQ、または Waves プラグインの画面を開くかどうかを設定します。「Graphic EQ」および「Waves」パネルはマスター画面にのみ表示できます。デフォルトでは「insert」オプションが有効です。
 - ・ Solo オプションの「Solo Reverts to Output」がマルチチャンネルでも有効になりました。
 - ・ Meters オプションに「Operating Level」ボタンが新たに追加されました。このボタンにより、全ての PPM メーターの基準が 0 dBu となるように、PPM メーター表示時の定格レベルの差を補正することが可能です。SD Series コンソールおよびラックの定格レベルは +22 dBu に設定されています。
 - ・ 出力 EQ の「pre-insert bands」で「curve」ボタンを押すと、上または下から 2 つのバンドがパラメトリック・フィルターから 24dB/oct フィルターに切り替わります。フィルター・ポイントの操作は、フィルターのコントロールではなく EQ の「freq」コントロールで行います。測定フィルター・ポイントは -6 dB ポイントです。
 - ・ 拡大表示した EQ 画面ではプリ／ポストのインサート EQ ポイントが全て表示され、タッチすることで「gain」および「freq」のパラメーターコントロールをできるようになりました。
 - ・ 各 Output チャンネル上の「merge input」機能を使用すると、バスに追加の信号をミックスできます。まず、バス／出力チャンネルの最上部にタッチして「Setup」画面を開きます。「merge input」ボタンを押すと入力ルーティング画面が開き、ソースを選択できます。バスに追加する信号のレベルはレベルつまみで調整し、この「merge input」機能の ON/OFF 切り替えは「on/off」スイッチで行えます。
 - ・ Output チャンネルに新たに追加された ident「tone」ボタンを長押しすると、出力バスにオシレーター信号がルーティングされます。オシレーターのレベルおよび周波数の設定は、マスター画面の「oscillator」パネルで行います。
 - ・ 「Snapshots」パネル左上に表示される数値キーパッドで番号を入力することにより、いつでもスナップショットを呼び出せます。「Snapshots」パネル左上隅のキーパッドマークのボタンを押して、呼び出したいスナップショットの番号を入力してから「OK」を押します。
 - ・ スナップショットのリストを特定の順序に組み替えたい場合、リスト内の項目を移動させることで変更できます。
 - 1) 「move」ボタンにタッチします。
 - 2) 最初と最後のスナップショットにタッチすることにより、移動するスナップショットの範囲を選択します。1 つのスナップショットを移動する場合は、同じスナップショットに 2 回タッチします。
 - 3) 「select destination」ボタンが自動的にハイライト表示されます。その状態で、スナップショットの移動先にタッチします。
 - 4) 「move」ボタンを押して操作を確定します。
- ※すでにを行った範囲選択を変更したい場合は、「select range」ボタンをもう一度押します。このパネルを初めて開いた時の標準操作では、このボタンを 3 回目に押した時に自動的に移動先選択として入力されます。
- ・ 「Snapshot MIDI List」パネルでは、「move up」 / 「move down」ボタンを使用してスナップショット／キュー内の MIDI メッセージの順序を変更できるようになりました。また、「dis」列の該当行にタッチすることで、MIDI メッセージを個別に無効にすることも可能です。
 - ・ 「Snapshots」パネル右下の「view options」ボタンを押すと「Snapshot View Options」パネルが開き、スナップショット・リストのテキスト、背景、およびサイズを設定できます。また、「touch

to fire」機能の ON/OFF もこのパネルで行えるようになりました。

- ・ SD7 の Talk Mic ソケットの入力ゲインがスナップショットのリコール機能の範囲から除外されました。
- ・ マトリクス入力チャンネルの「Setup」パネル最下部に「safe」ボタンが追加されました。このボタンを ON にすると、マトリクス入力パラメーターがスナップショットの呼び出しから除外されます。
- ・ マトリクス画面でつまみを選択すると「clear」ボタンの右上にキーパッドが開き、値を直接入力できます。
- ・ MIDI プログラムチェンジ・メッセージを送る（受信する）ことによってマクロの実行が可能です。MIDI アサインを選択するには、「MIDI PC」ボタンにタッチし、touch turn エンコーダーまたはキーパッドで MIDI チャンネル番号を選択し、コントローラー値を入力します。
- ・ マクロは、最後に選択した入力チャンネルまたはバスに対して実行されるようになりました。
- ・ 「fader starts」によるマクロの実行が、マルチチャンネル及びコントロールグループに対しても有効になりました。
- ・ 「edit backup」機能により、バックアップ・クロック・ソースの設定も行えるようになりました。バックアップ・ソースは、プライマリ・ソースが切断された場合に自動的に使用されますが、パネルの最上部にあるボタンで手動選択することも可能になりました。
クロック・ソースがバックアップに切り替わると、コンソール・ステータス・バーのクロック・ソース・インジケーターが黄色でハイライト表示されます。シンクのソースが自動で切り替わった際には画面上にお知らせが表示されます。
- ・ 「Option/All」ボタンを押しながらチャンネルの「select」ボタンを押すことにより、そのチャンネルをバンクの「全チャンネル」から除外できます。このモードでは、LCD 画面に「Include」または「Exclude」が表示されます。
- ・ Optocore マップの更新が必要になると、コンソール・ステータス・バーの「Optocore ID」ラベルがハイライト表示されるようになりました。
- ・ エラーの表示形式が変わり、これまでの標準的な Windows のメッセージ画面形式から SD シリーズ形式のエラー表示になり（フェードアウトしません）、メインステータスの「Computer」の項目が「ERR」と表示されます。その後 SD シリーズ形式のエラーメッセージ画面を閉じると、「Computer」項目のエラーステータスをクリアします。
- ・ OSC 経由にてコンソールを外部コントロールすることが可能になりました。この詳細については DiGiCo サポートまでお問い合わせください。
- ・ ログファイル内により多くの詳細情報が記録されるようになりました。

ブロードキャスト機能におけるアップデート内容

- ・ マルチに対しても、バックストップ PFL およびフェーダー PFL を設定できるようになりました。
- ・ 「Speakers」パネルに「pre-insert out」ルーティング・オプションが追加されました。
- ・ ソロ・バス専用のアップミックス／ダウンミックス・マトリクスが追加されました。

-
- ・ ソロ・バス・アップミックスのデフォルト設定は、アップミックスが適用されないように変更されました。
 - ・ PFL バス (Solo 2) はステレオとして設定できるようになりました。
 - ・ アップミックス／ダウンミックス・マトリックスのトリムは、0.5 dB ステップで動作します。
 - ・ マスター・フェーダーポジションからマスター・グループのアサインを解除できるようになりました。
(対象：SD5、SD7、SD10)

V685 からのエラー修正点について

- ・ セッション内にステレオグループバスが一つしかない場合、Aux Order 画面にてステレオ Aux を消去できなかった問題を改善しました。
- ・ Broadcast 版で “Disable all mutes” の機能が有効な際に 10 番目のスマートキーも無効化されてしまう問題を改善しました。
- ・ センターセクションのフェーダーバンクにアサインされた Aux バスにインサートしている GEQ を Surface Solo クリアボタンを押してクリアした場合に Access Violation のエラーを発生してしまう問題を改善しました。
- ・ Aux to Fader 機能が有効な際にフェーダーアサイン済みのチャンネルが正しく機能しなくなる問題を改善しました。
- ・ Session Structure にて Group to Group のミックスルールがリセットされてしまう問題を改善しました。
- ・ ファイルの順番の分類方法の設定が記憶されない問題を改善しました。
- ・ Aux to Master と Dual Solo (ブロードキャスト版) にアサインされた、スクリーン下の 3 列のボタンが、Aux Pan 機能が有効な際には正常に働かない問題を改善しました。
- ・ MIDI プログラムチェンジの情報を連続的に送信・発信した場合、アサインを解除した際に順番が変化してしまう問題を改善しました。
- ・ Edit Range を用いての Recall Scope の変更を実施した場合、時々、登録した設定機能を実行しない問題を改善しました。
- ・ シアター版のセッションで、毎回ソロの出力レベルの設定がオフに戻ってしまう問題を改善しました。
- ・ SD7 で Aux to Master のセンドのオン / オフボタンを切り替えても、モノ Aux の音声には有効にならない (影響しない) 問題を改善しました。
- ・ SD11 で、Aux マスターとなっている input チャンネルが同じバンクにいない場合には、ロータリーノブを使用して Aux を操作する際に最後に選択していた Aux センドが適用されるようになりました。
- ・ 幾つかの PPM メーターに誤りがあり、修正が加えられました。
- ・ 持続時間が 4 分の 1 フレーム以下しか持続しない連続した Cues / Snapshots を起動すると、ミラー状態にあるエンジン間でエラーを発生してしまう問題を改善しました。

-
- ・ SD9 / SD11 のローカル I/O の AES 入力 で SRC 機能が正常に働かない問題を改善しました。
 - ・ シアター版にて、フェーダー / ミュートの Recall Safe がミュートコントローラーにしか有効にならなかった問題を改善しました。
 - ・ チャンネルセットの名前付けをしている際、キーボード上の next / tab ボタンを押しても次のセットに移動しない問題を改善しました。
 - ・ Recall Scope 上で input / trims を選択解除した場合にはグローバルチャンネルタイプの Scope 調整が止められてしまう（できなくなってしまう）問題を改善しました。
 - ・ セッションロード後に Hard Mute を実行しているチャンネルを PFL にできるようになりました。
 - ・ Cue リストが作成された後でマルチが追加された状態で、Auto Update でマルチチャンネルコントローラーを更新した際にエラーが生じる問題を改善しました。
 - ・ 最初の接続時に、GEQ の名前が DiGiCo SD に送信されない問題を改善しました。
 - ・ 外部のコントロールパネルからアクティブ状態の接続を解除・削除しても、アクティブなポートを閉じず、またそれらのポートが今後接続されなくなってしまう問題を改善しました。
 - ・ System メニューの Security 画面にある unattended モード（コンソールのロック機能）を有効にしている間に、SD7 のマスターセクションのフェーダーにて操作が行われた場合に両方のエンジンにて補正を行うかどうかの確認が出るようになりました。
 - ・ 2 番目のダイナミックモジュールのゲートからコンプにかけて変更を加えて、それらを Snapshot で同時にオンに切り替えると、エンジンの EQ システムのリセットを引き起こしてしまう問題を改善しました。
 - ・ SD7 のセンターバンクが Flip モードの場合、Snapshot でバンク切り替えがリコールされない問題を改善しました。
 - ・ シアター版で、Options の Theater タブの Player Exclusions で Fader と Mute を有効にしている場合に、Player 間のその他の項目のアップデートを阻害する問題を改善しました。
 - ・ Waves への切り替えマクロを実行した場合、画面に表示される切り替わり先が最後に選択・設定していたラックではなく、1 番目の Waves ラックになってしまう点を改善しました。